

## 教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒  
明るく思いやりのある生徒  
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第30号

平成30年 1月30日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

# 小・中一貫の特別支援教育を社会につなぎたい 障がいの有無を超えて

私、教育委員会勤めがいささか長くて、学校現場に出たら実現したい夢がありました。それは、特別支援教育をもっと社会に開かれたものとする。言い換えると、特別支援教育について、社会の方々にもっと理解を広げたいという願いが生まれたのです。

そのために、形にしたいことが二つあり、一つは、特別支援教育を必要とするお子さんの保護者の方が気軽に集える場を提供したいということです。保護者と学校、保護者同士が、感じていること、考えていることを肩肘張らずに話ができる関係を築くためです。本紙第26号の12月6日(水)の授業参観の記事で触れた特別支援学級の懇談会はこのような考えで実施したものです。今後、小学校の保護者さんにも開き、卒業した保護者さんの参加も得て、「タテの関係」で実施できたら、さらに有意義な会合になるのではないかと見通しを持っています。

二つめは、通常の学級に在籍する生徒、その保護者さんとの交流です。現在、特別支援学級の生徒が通常学級に入って学習する形態があり、これを「交流授業(学習)」と呼んでいます。授業だけでなく、生活面でも自然な交流が促進できないかと模索中です。同様に、通常学級にお子さんが在籍する保護者の皆さんにも愛護育成会などの活動や懇談会に参加していただき、保護者同士の「ヨコの関係」が築けたらいいなあと考えています。

そこで、卓球の国際大会でも大活躍の平野美宇選手の話をしたと思います。昨年10月16日放送の「人生が変わる1分間の深イイ話×××」(日本テレビ)で、美宇さんの家族を取り上げていたのを見ました。平野家の親子関係を知ることは、私にとって自分の世界を広げることになりました。

母親の真理子さんが、美宇さんの妹(次女 亜子さん)が発達障がいであることを「隠すことじゃない。(彼女は)私の天使」と言い、さらにこのように語っていました(記憶頼みなので、正確ではありませんが)。

「亜子(さん)が将来も自分らしく生き生きと生活していくには、地元で亜子(さん)の個性を理解してくれる友だちが必要。だから、発達障がいについても堂々と言います。」



真理子さんと亜子さん

「個性を理解してくれる友だち」がいて、さらには同年代のお子さんを持つ保護者の方や地域の方の理解が得られたら、どんなに心強いことでしょう。障がいのあるお子さんをお持ちの親御さんが悩みや不安を軽くして、お子さんの成長に寄り添っていけるかどうかは、教育行政や福祉行政だけではなく、社会全体の問題なのだと思います。それを実現することは、障がいの有無に関わらず、誰にとっても自分の世界を広げ、心豊かに生活することにつながるのではないのでしょうか。

例えば、目の不自由な人たちが行っているブラインド・サッカーに、そうでない人もアイマスクをして参加するように、下肢が不自由な人が行っている車椅子バスケットボールに、そうでない人もあの機能性の高い車椅子に乗って参加するように・・・、障がいのない人が、障がいのある人の世界に入っていってともに楽しみを広げていく時代が、そう遠くない将来訪れるような気がします。

## エコキャップ運動



中学生も本年度から参加して、12月20日(水)エコキャップ運動を小・中合同で行いました。中学校と3つの小学校が一体となって活動することで、活動の意義を深く意識する機会となりました。

## 生徒会・児童会交流



12月18日(月)、3つの小学校の児童会と本校の生徒会の役員が、連携してできることを話し合いました。今後中学生が中心となって、成果と課題をもとに活動の充実を図ってくれるよう期待します。

## 中学校見学会



10月24日(火)に阿武隈小、翌25日(水)に柏城小、台風による臨時休業で須二小は12月4日(月)に延期して、各校の6年生が来校し、授業や部活動を見学しました。中学校生活に対する抵抗は薄れたでしょうか。

## 中学校生活を聞く会



1月19日(金)、本校の生徒会役員がそれぞれの小学校を訪問して、先輩の立場から中学校の生活や学習などについて小学6年生に優しく説明をしました。中学校生活に意欲がわくといいですね。

小  
中  
一  
貫  
教  
育  
の  
連  
携  
事  
業

## ひと味違うぞ！ 二中生



1月23日(火)は記録的な寒波が日本列島を覆い、この近辺の積雪量も40cmを超えたでしょうか。

この日、一番早く来た生徒は、6時前に登校してきました。階段を昇ってくる足音が校長室に聞こえて、誰か職員が早めに出勤してきたのだらうと思ったのですが、職員室に入っていた気配がありません。では生徒だったかなと、校舎内を軽く見回っても姿が見えません。職員玄関を出てみると、果たして男子生徒が一人で寒そうに立っていました。校舎内に人がいなかったの、戻って外で待っていたのでしょうか。

それから二人で、校門から給食室前までの歩道の雪かきをしました。重い雪を歩道の傍にひと掻きごとに掻き出す作業は結構な重労働で、私は腰に張り痛みを覚えて、すぐに休み休みの作業になってしまいました。さすがに若い彼は、ペースは私よりも遅いものの休むことなく着実に雪を掻いていきます。そして、私が声をかけると、「暑い、暑い」と言って何度も学生服の襟もとを広げるほどの頑張り、あとから登校した生徒が応援に加わるころには、雪を掻いた跡がふたすじ長く伸びていました。

なお、スリップした車を後ろから生徒たちが押し上げ、後日お礼の電話を何本かいただきました。

この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。